

## 高校最後の大舞台

# 国民体育大会で入賞

10月1日、山口県周南市で第66回国民体育大会が開幕。  
東鷹高校レスリング部、奈木野琢郎さん（3年・伊田中出身）、  
中村建太さん（3年・添田中出身）が  
レスリング少年の部に出場し見事入賞を果たした。



◀健闘をたたえ合う奈木野さん（左）と中村さん

### レスリングの日々

東鷹高校レスリング部は、部員全員が高校からレスリングを始めた選手ばかり。もちろん、奈木野さん、中村さんも高校に入学してからレスリングを始めた。中学の時は、バスケットボールをしていたという奈木野さん。もともと格闘技に興味があり、また先生に誘われたことがレスリングを始めたきっかけ。一方、中村さんは、レスリング部に所属していた中学時代の先輩に憧れ、レスリングを始めたそう。2人は、練習を重ね、みるみる頭角を現すと各大会で優勝するなど多くの活躍を見せた。レスリング部では、授業が終わると中野智之監督指導の下、マット運動や柔軟などで怪我をしないための体作りを行い、基礎力をつけてから、スパarringなどの実践的な練習を行う。中野監督は、「努力すればするほど強くなるが、諦めてしまえばそれ以上は強くな



なかの ともゆき 監督  
中野 智之 (田川市在住)

日本体育大学レスリング部出身。平成19年東鷹高校レスリング部監督に就任。山口国体では、少年の部の福岡県代表監督も務めた。

れない」と語る。中野監督の熱心な指導を受け日々練習に励む2人。「スパarringはきついけど、いろいろな技を試すことができ、試合で実践するためには重要だから頑張れる」と2人は口を揃える。厳しい練習を乗り越えた先にあるレスリングの楽しさを、奈木野さんは、「練習をして、勝てなかった相手に勝てるようになること」、中村さんは、「相手にきれいなタックルを決めて、持ち上げること」と話す。

### 国体出場

7月に行われた国民体育大会福岡県予選をそれぞれの階級で優勝した2人は、高校最後の大舞台となる山口国体出場の切符を獲得した。

奈木野さんは、「国体という大きな場で恥ずかしくない試合をしたい」、中村さんは、「福岡県代表なので負けられない。出るからに

は優勝したい」という強い気持ちを持って試合に臨んだ。その結果、中村さんは、フリースタイル74kg級に出場し、最後まで諦めず攻める姿勢を見せ準決勝まで勝ち進み3位入賞。奈木野さんは、グレコローマンスタイル84kg級に出場し、準々決勝で1ピリオドは得意技の首投げが炸裂。しかし、2、3ピリオドに逆転され惜しくも5位入賞という結果となった。2人は、「負けたのは悔しかったけど、入賞できたことは嬉しかった。大会に出場して、他の選手たちと比べ自分のレベルの低さを実感した」と大会を振り返る。

また、中野監督は、「奈木野は、ケガも多く、練習期間が短かった中で、トレーニングを一生懸命行い、ケガを乗り越えてがんばった。中村は、全国大会の中止やインターハイで敗れた悔しさをバネに、国体に向けての2カ月間は人一倍練習を重ね努力していた」と2人を評価した。

### さらにも上を目指し躍進

2人には、目標としている選手がいる。奈木野さんは、同校レスリング部OBの赤熊猶弥選手（拓殖大学）、中村さんは、同じくOBの杉本京介選手（日本体育大学）。全国大会などに出場し、戦う先輩たちの姿を1年生のころから目の当たりにしてきた2人。「先輩に追いつけ、追いつけ」という強い気持ちで3年間レスリングに打ち込んできた。

奈木野さんと中村さんは、来春、同校を卒業し、3年間共に練習した仲間と離れ大学へ進学する。大学でもレスリングを続けるという2人。今後の目標は、「大学で1年生からレギュラーとして活躍できる選手になること」と2人は力強く語る。

これからも、お互いに刺激し合い、よき仲間、よきライバルとしてお互いの力を高めあっていくことだろう。これからの2人のますますの活躍が楽しみだ。



▲気迫に満ちた表情で戦う中村さん(右)